

でんでら通信 第百七号 令和五年三月

墓地 入口 水場 新築

本年会計報告に記載させていただきました墓地入口の水場を新築しました。以前の水場は柱の下部が腐食しており、基礎の石から落ちて傾いた状態でした。おかげさまで立派なものが出来上がりました。どうぞお寺にお越しの際にご覧ください。

坐禅会

三月二十八日(火) 十時に坐禅会を開催します。みなさんのご参加をお待ちしております。

花まつり

四月八日はお釈迦様のお生まれになった日です。今年も門前に花御堂を祀り甘茶供養をいたしますので、みなさまご一緒にご参詣ください。

菩提の種

三月に入り、寒さも和らぎ、だいぶ暖かくなってまいりました。これからは、木々も芽吹き、花を咲かせ、日差しがキラキラと輝くことでしょう。

きょうひがん 今日彼岸 菩提の種を 蒔く日かな

お彼岸の頃になると、よく聞かれる松尾芭蕉の句とされる俳句です。「菩提」の意味、解釈には様々ありますが、ここでは「安らぎの境地」、「穏やかな心

境」ということでしょう。

この世の中はいつの時代も、何一つとして自分の思い通りになることも自分の都合よく進むこともありません(①「一切皆苦」)

そんなことはよくわかっているのに、私達人間は、この世の中は自分の思い通りになる、都合よく進むことになっている、と錯覚し生活しています。来年の今頃は、お金もこれくらい貯まっているだろうから、みんな元気に育っているだろうからとスケジュールを立てたり、思いを巡らせます。

そして私たちは、文明が発達し日常生活が豊かになってきて、便利さに慣れ、いつまでもこのような生活が続くと勘違いしてしまっています。

ましてや生まれた時から、裕福で便利な世の中に育った人は、物の豊かさ、便利な日常が当たり前になっています。

しかし現実を見渡せば、昨今のコロナの感染拡大、物価の上昇、戦争、気象などにより、予想外なことが起きており、人々は右往左往しています。

この世のすべては永遠に同じということではなく、一瞬たりともその姿かたちを留められるものはない

(②「諸行無常」)、という不変の真理について、

仏教は説いています。

その厳しい「諸行無常」の中にありながら、私たち一人一人は家族、友人をはじめとした多くの人々とのつながりによる恩恵、また太陽、空気、水、動物などからいただく恩恵、そういった数多くの「恩

をいただいて、今この「我(私)」という存在があります。(③「諸法無我」)

このような①一切皆苦、②諸行無常、③諸法無我について、人々が自覚し、日々の暮らしの中に活かしていくことにより「やすらぎがある、穏やかな心境」つまり「菩提」の心が生まれてくるのです。これが(④涅槃寂靜)です。

「菩提の種を蒔く」とは「恩に報いる生活をする」ということです。「便利な世の中」・「進歩した世界」に囲まれた生活の中で常に「報恩」の心を育んでいくことが大切です。

今の私達一人一人に与えられたかけがえのない一瞬一瞬は、先人の方々、自然の中の大きな命、すべての縁のあるものにより生かされているのです。

ともすると、生きているのが当たり前という錯覚に陥ってしまうものです。しかし、「この当たり前こそひじょうに尊いことなんだ」と自覚すれば、自ずから、「ありがたい」という心からおもわず、手と手を合わせ「感謝」せずにはおれません。

昔、私の祖母は毎朝、お日様にパンパンと手をたたいて手を合わせていたのを覚えています。たぶん自然と身についた行動だったのでしよう。

日々数多くの「恩」に感謝し「報恩」に務めていきたいものです。

※①一切皆苦、②諸行無常、③諸法無我、④涅槃寂靜は「四法印」といふ仏教教理のひとつ。悟りへの境地 参考…臨黄ネット 法話「菩提の種」